

平成29年度第2回幕別町次世代育成支援対策地域協議会会議録

- 1 日時
平成29年11月13日（月）19：00～20：25
- 2 場所
幕別町役場 2階2A-B会議室
- 3 出席した委員
14人：千葉会長、式見副会長、荒木委員、浦上委員（代理板谷）、片岡委員、
小山委員、下川委員、杉山委員、嶽山委員、西川委員、堀委員、前川委員、
矢野委員、横山委員
- 4 欠席した委員
1人：大坂委員
- 5 事務局
9人：合田住民福祉部長、高橋こども課長、金田一保健福祉課長、菅原保育係長、
田村こども支援係長、浜頭福祉係長、長田主査、高橋主任、森主任
- 6 配布資料
資料1：幕別町子ども・子育て支援事業計画（平成27年度～平成31年度）評価シ
ート
資料2：幕別町子ども・子育て支援事業計画に関する中間年の見直しについて
資料2-2：保育の必要量と利用実績の比較
資料2-3：幕別町子ども・子育て支援事業計画の中間年見直し新旧対照表
- 7 内容
(1) 開会 千葉会長挨拶。
(2) 議事
○ 進行：千葉会長
① 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況及び評価について
子ども・子育て支援事業計画の進捗状況・評価の取りまとめ結果について、
変更のあった主な部分を事務局（田村係長）から説明。
【資料】
○資料1 幕別町子ども・子育て支援事業計画（平成27年度～平成31年度）評
価シート
【質疑・意見】
○1番「認定こども園整備事業」について
委 員：進捗状況の中で「幕別区域における幼稚園教育の需要は小さくない
ことも視野に入れ慎重な協議を進める」と掲載しているが、これは
必ずしもわかば幼稚園と中央保育所をひとつにし、認定こども園に
移行するというわけではないことを意味しているのか。
事務局：当初の計画では、子どもの数の減少及び保育所の利用割合の増加
から、幕別区域における幼稚園利用者が少なくなると推測してい
たが、実際は推測していたほど幼稚園の利用は減ってきておらず、
幕別区域で幼稚園を利用する子どもの数は一定数が保たれている
状況である。時期計画に関するニーズ調査を平成30年度に行う予
定であり、その中で認定こども園に関するニーズをもう少し細かく
確認したい。漠然と認定こども園に移行するかどうなるかを問
うのではなく、移行するとどうなるかを具体的な形で示せるよう
考えており、その調査結果を元に検討をしていきたい。

○7番「保育所、幼稚園、小学校の連携」について

委員：特別な支援が必要な児童への対応は、町内どこの保育所・幼稚園でも行っているのか。また、支援の必要な児童はどのくらいいるのか。

事務局：人数については細かな数字はとらえていないが、各施設に1人はいるようなイメージ。連携については、例えば年長児であれば小学校入学時期が近づくと保育要録の引継ぎがあり、その中で児童の様子を伝えたり、直接保育士と学校の先生が会って様子を伝えたり、就学後は学童と学校の先生が会って様子を伝えたり等、情報を共有し見守りをしている状況である。

○8番「延長保育事業」について

委員：昨年の協議会の中では、直営保育所3箇所についても延長保育を行うとしていたが、今回の進捗状況には札内青葉保育園と札内南保育園で賄えているとしているので、直営の保育所で延長保育を実施することはやめ、このまま様子を見るということか。

事務局：直営保育所で7時までの延長保育を行うにあたり、検討をし、7時まで受け入れる体制は整えた。しかし、実際にどれくらいの利用があるのか、雇用証明書等で保護者の就労時間を確認したところ、幕別区域については7時までの延長保育の必要性をそれほど感じられなかった。札内区域についても、現在延長保育を行っている札内青葉保育園と札内南保育園での利用人数はそれほど多くなく、1日2～4人程度の利用しかないという実情から、あえて札内区域の保育所4箇所まで夜7時まであけるより、延長保育が必要な家庭については札内青葉保育園と札内南保育園の利用を検討してもらおうように考えている。その代わり、直営保育所については、今年度からは原則6時半までの保育時間を、急な予定変更等で6時半までに迎えに行けない場合に事前に連絡をもらい7時まで保育時間を延長できるという柔軟な体制を取りながら、細かく延長保育の必要性を確認しているところである。これまでの半年程度行ってきたが、数としては多くない。また、遅れるとしても5分程度という状況であったため、もう少しこの体制を続けて様子を見て、7時までの延長保育の需要が大きくなった時に恒常的なシステムとして検討をしたいと考えている。

○24番「子育て支援情報提供事業」について

委員：子育て支援センターの年間延べ利用者数が減少している要因はあるか。

事務局：子どもの数そのものが減少していることが現れているのではないかと考えている。

② 子ども・子育て支援事業計画における保育の量の見直しについて

子ども・子育て支援事業計画における教育・保育の必要量の見込みについて、当初計画と実績の数字に大きな開きがある部分等の計画内容の見直しについて、事務局（菅原係長）から説明。

【資料】

○資料2 幕別町子ども・子育て支援事業計画に関する中間年の見直しについて

○資料2-2 保育の必要量と利用実績の比較

○資料2-3 幕別町子ども・子育て支援事業計画の中間年見直し新旧対

照表

【質疑・意見】

委員：認定こども園移行について、子どもの数ではなく、施設の老朽化による建替えがメインとかがえていた。しかし、需要によってはこれまでどおり幼稚園と保育所として存続していくということだが、二つの建物を更新する余裕があるのか、あるいは将来的なことも考えて認定こども園に移行するのか。このあたりの行政としての方向性を、パブリックコメントを行う前にまとめておいたほうがいいのではないか。

事務局：認定こども園への移行は施設の老朽化も理由としてはあるが、当然これが理由のすべてではない。幼稚園・保育所・認定こども園それぞれ管轄も基本となる方針も違うが、今年それぞれの指針の見直しがあり、中身がかなり摺り寄せられ、今までのようにそれぞれが全く違うものでもなくなっている。しかし、それぞれ違っている部分はあるため、内容を研究し保護者のニーズについても確認しながら検討をして、最終的な結論を出したい。

委員：パブリックコメントでは、認定こども園へ移行することに絞って行えばいいのではないか。行政としても、方向性を示して聞いた方がいいのではないか。

事務局：来年度のニーズ調査の中では、幕別区域については認定こども園移行を目指しているという形で行いたいと考えている。しかし、ニーズが当初予想していたものと違ってきたため、移行時期も含め調査を行いたい。そのため、移行時期については平成31年では難しく、平成32年以降の次期計画内で位置づけると考えている。

委員：時代の流れを考えると、認定こども園に移行していくことが正しい判断なのではないか。共働きの保護者はますます増えていくことが予想され、それにより0歳児の保育ニーズが高まっていくことが考えられる。認定こども園は幼稚園・保育所の両方の機能を持っており、様々なニーズに対応できる。今後はこういった施設の必要性が高まると思う。

委員：認定こども園への移行は幕別区域のみなのか。

事務局：現段階では幕別区域のみ考えている。ニーズ調査において、具体的にどうなるかを示した上で意見を聞く。札内区域についても同じものを必要としている声はあるかと思うが、札内は認定こども園に移行するとしても、複数の施設がひとつになり認定こども園になるのではなく、既存の施設が認定こども園に移行するという形となると思われる。

ニーズ調査については町内全域を対象とし、保育の利用等、次期計画における保育全般に関する調査を行うことを想定しているが、認定こども園については、幕別区域限定で聞こうと考えている。

委員：幕別区域限定とすると、他の区域がどうして幕別区域だけなのかと思うのではないか。

委員：札内区域については帯広の幼稚園も入ってきており、園児の取りあいとなっているところもある。そのため、今回の認定こども園移行については、幕別区域だけでいいのではないか。

委員：次期計画のためにニーズ調査というのであれば、町内全域に聞い

たほうがいいのではないか。幕別区域限定とすると、他の区域からいつ認定こども園に移行するのかという意見が出るのではないか。

委員：認定こども園についてしっかり情報を与えた上で調査を行えば有効であるだろうし、説明だけであれば全町的に行ってもよいと考えるが、取り入れようとしている幕別区域については、利用するかしないかも含め、調査をすることも大事なのではないか。

事務局：教育委員会とともに、幼稚園・保育所の保護者に対して認定こども園についての説明をきちんと行い、その上でニーズ調査を来年度行いたい。

委員：管内に認定こども園の数はどれくらいあるのか。

事務局：幼保連携型が5園、幼稚園型が4園、保育所型が6園、全部で15園ある。幼稚園型・保育所型は町内に幼稚園または保育所のどちらかしかなく、必要に迫られて認定こども園に移行したものもあるのではないかと推測される。今後、管内の幼保連携型認定こども園を視察し、移行したことのメリット・デメリットを確認しながら、来年のニーズ調査では単に必要か必要ではないかだけではなく、具体的な場所や保育料が上がる可能性等を示した上で、本当に幕別区域に認定こども園が必要かどうか調査したい。

委員：メリット・デメリットについては、保護者の立場だけではなく子どもにとってもどのようなメリット・デメリットがあるのかということを考えて選んでいただければと思う。

会長：子ども・子育て支援事業計画については様々な意見が出たが、原案通りでよいか。（異議なし）

なければ、年内にパブリックコメントを実施し、意見の応募があった場合は改めて本協議会内で審議する。特に意見がなければ本日協議いただいた意見で協議を終了とする。

(3) その他

○事務局

- ・前回の協議会で議事にした「子育て応援サポートブック まくはぐ」について、いただいた意見を反映し、完成したことを報告。
- ・子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し（案）については会長から説明があったとおり、パブリックコメントによる意見の応募状況にもよるが、民生常任委員会の所管事務調査で報告し、北海道との協議を経て、平成30年4月から実施することとなる。
- ・次回の協議会については、必要に応じて開催することとなる。会長と相談の上、日程が決まり次第、文書にて案内する。

○会長

今回もたくさんの意見をいただき、ありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。

閉会